

資料 1

平成 25 年度広島県大学図書館協議会事業報告（案）

会議

1. 平成 25 年度総会
日時・会場：6 月 24 日 福山大学 宮地茂記念館
参加：26 機関 37 名
2. 幹事館連絡会議 第 1 回 5 月 20 日
3. 研修企画委員会 第 1 回 5 月 20 日
4. 共同リポジトリ委員会 第 1 回 11 月 6 日
5. 広島県内図書館連絡会議 12 月 24 日

研修会・行事

研修会

第 1 回

日時・会場： 8 月 23 日 広島経済大学 立町キャンパス 4 階
テーマ：「学生の読書機運を高める大学図書館の役割：ビブリオバトルを例に」
講演：「ビブリオバトルを大学図書館が推進する意義」
吉植庄栄（宮城教育大学附属図書館）
ディスカッション：宮城教育大学ビブリオバトルサークル BIBLion
徳島大学附属図書館 佐々木 奈三江 氏
阿波ビブリオバトルリーダー学生代表 山下 沙綾 氏

参加：20 機関 38 名

第 2 回

日時・会場： 12 月 9 日 広島修道大学図書館 M2 階 ライブラリーホール
テーマ：「統計の工夫で職場生き生き」
講演：野村正人（広島大学図書館 図書学術情報普及グループリーダー）
事前課題発表

『カーブでもないのにマエケンの研修』

参加：15 機関 26 名

共同リポジトリ勉強会

日時・会場： 11 月 6 日 広島経済大学図書館
「新 HARP システム『Earmas』の概要及び基本操作について」松本侑子（広島大学）
「『Earmas』一括登録操作実習」森保信吾（広島工業大学）

参加：17 機関 31 名

事業

1. 協議会ホームページの運用
2. 共同リポジトリ（HARP）システムの更新・移行
3. ビブリオバトル広島地区予選・決戦の開催

「ビブリオバトル首都決戦 2013」(※)に広島県内の大学生・大学院生が参加できるような環境を整えることを目的に協議会事業として（平成 25 年度総会承認）以下の通り実施した。

(1)広島県立図書館が予選会主催団体として予選会事務局（ビブリオバトル普及委員会内）に申請を行い、広島県大学図書館協議会・広島県立図書館友の会共催で地区決戦を開催。

(2)二者の役割

広島県立図書館：予選会事務局との連絡調整・報告、地区決戦の開催、広報。

広島県大学図書館協議会：各大学間の連携、予選会の開催、広報。

(3)広島県大学図書館協議会内の実施体制

- ・協議会事業として予選会開催大学を募集し、5 大学で開催した。
- ・広報等を連携して行った。
- ・本協議会主催の地区予選会チャンプについて、地区決戦会場（広島県立図書館）への旅費を支弁した。

| 大学名 | 決算額(円) | 備考 |
|--------|--------|-------|
| 広島市立大学 | 300 | |
| 広島大学 | 2,100 | |
| 広島経済大学 | 660 | |
| 広島修道大学 | 1,240 | |
| 福山市立大学 | 10,440 | 新幹線利用 |
| 合計 | 14,740 | |

- ・予選会開催にあたり、他地区の動向、大学図書館が支援する意義を考えるために、研修会を開催した。

(4)実施内容

広島地区予選

| 開催日 | 開催場所 | 発表者数 | 観客者数 |
|--------|--------------------------|------|------|
| 10月17日 | 広島修道大学図書館 M2 階ラーニング・コモンズ | 6 | 20 |
| 10月17日 | 広島大学中央図書館 BIBLA グループスペース | 5 | 35 |
| 10月19日 | 福山市立大学中講義室 A | 7 | 50 |
| 10月24日 | 広島経済大学図書館 4階大会議室 | 5 | 47 |
| 10月26日 | 広島市立大学附属図書館棟 1階ピロティ | 5 | 35 |
| 計 | | 28 | 187 |

広島地区決戦

| 開催日 | 開催場所 | 発表者数 | 観客者数 |
|-------------|---------------|------|------|
| 11月3日(文化の日) | 広島県情報プラザ1階ロビー | 8 | 73 |

6大学(うち県大図協主催は5大学)での予選が行われる激戦区となり、うち、福山市立大学の学生が首都決戦に進んだ。また、この学生は、首都決戦参加者30名の中からさらに決勝戦に進み、5位入賞と健闘した。

※ビブリオバトル首都決戦

大学生・大学院生の参加によるビブリオバトル(書評合戦)の全国大会。2010年よりスタートし、昨年で4回目。地区内で3箇所以上の予選を行い、地区決戦を経て参加できる。(参加者へは旅費支給有り)

首都決戦 2013年

日時： 平成25年11月24日(日)

会場： ベルサール秋葉原

主催： 東京都、東京都教育委員会、(公財)法人文字・活字文化推進機構

特別協力： ビブリオバトル普及委員会

協力： 読売新聞社、紀伊國屋書店 他

発表参加者数： 30名

観客総数： 3,300名

資料 2

平成 25 年度広島県大学図書館協議会総会議事録

日時：平成 25 年 6 月 24 日（月）13：00-17：00

会場：福山大学 宮地茂記念館

参加：26 機関 37 名出席

1. 開会 当番館 福山大学
2. 挨拶 当番館 福山大学長 松田文子
代表幹事館 広島大学図書館長 富永一登
3. 議長選出 慣例により、当番館である福山大学図書館の田中館長を選出した。
4. 報告
 - (1) 平成 24 年度事業
代表幹事館広島大学の甲斐副館長から、平成 24 年度の事業として、総会、各委員会の開催、研修会等について報告があった。
 - (2) 平成 24 年度研修企画委員会
日本赤十字広島看護大学の渡辺参事から、平成 24 年度の研修会およびワーキンググループの活動について報告があった。
 - (3) 平成 24 年度共同リポジトリ委員会
広島経済大学の西川部長から、平成 24 年度の共同リポジトリについて、海上保安大学校が参加して 15 機関となったこと、委員会で平成 25 年度以降の活動について協議したこと、勉強会の開催などについて報告があった。
 - (4) 平成 24 年度広島県内図書館連絡会議
比治山大学の福田課長から、平成 24 年度の広島県内図書館連絡会議について、新聞・雑誌総合目録の改訂、ビブリオバトルの開催を検討していることなどについて報告があった。
5. 各館活動報告
機関ごとに自己紹介し、あらかじめ提出した活動報告に基づいて特筆すべきことを 2 分ずつ報告した。

英語多読（尾道・国際学院）、Library Press Display、web アンケート（広工大）、ポイントラリー（比治山、山陽）、開館時間・冷房延長（県立、国際）
IR 登録済紀要の冊子体中止（呉）、JC による IR 構築（修道、福山）など

6. 協議
 - (1) 平成 24 年度決算書（案）および監査報告について
代表幹事館広島大学の尾崎主査から平成 24 年度の決算報告が行われたのち、監査館の呉工業高等専門学校の笠井館長より監査報告があり、異議なく承認された。
 - (2) 平成 25 年度事業計画（案）について
代表幹事館広島大学の甲斐副館長から、平成 25 年度事業計画（案）が提案された。ビブリオバトル首都決戦 2013 広島地区予選・決戦については広島県立図書館と共催で開催し、費用を県大図協の予備費から支出。会場募集（6-7 月）、予選会開催（9-10 月）、地区決戦（11/3）、首都決戦（11/24）とする。HARP サーバ・システムの更新・移行について、サーバ新規購入、ソフト DSpace→EARMAS へ 12 月予定。今後の会費計画を移行終了後に検討し、JC は数年後に検討するこ

ととした。

(3) 平成 25 年度予算（案）について

代表幹事館広島大学尾崎主査から平成 25 年度事業計画を踏まえて予算案の提案があり、原案通り異議なく承認された。

(4) 平成 25 年度役員館・委員館の選出について

幹事館連絡会議からの推薦により以下のとおり提案があり、異議なく承認された。() 任期、○委員長館

幹事館 (24-25) : ○広大、県立、経済、修道、工大、鈴峯

監査館 (25) : 商船

研修企画委員館 (24-25) : 広大、市大、○日赤、経済、修道、比治山、工大、商船

共同リポジトリ委員館 (25-26) : 広大、尾道、日赤、比治山、経済、○工大

県内図書館連絡会議委員館 (25) : 市大、比治山、安田

7. 承合事項

- ・学生からの図書購入申込み制限について（福山市大）
- ・図書館の開館時間について（日赤）
8 時半開館 8 館、開館作業とサービスを併行
- ・電子書籍の導入について（日赤）

8. その他

広島県立図書館の鍛冶副館長より県立図書館の事業説明として、広島県内図書館相互貸借に関する申込書の改正、大学図書館・広島県立図書館間の物流について報告があった。

9. 閉会 挨拶：当番館 福山大学図書館長 田中久男

平成 25 年度広島県大学図書館協議会研修企画委員会活動報告

1 研修会

第 1 回

日時：平成 25 年 8 月 23 日（金）

場所：広島経済大学

テーマ：「学生の読書機運を高める大学図書館の役割：ビブリオバトルを例に」

講演：「ビブリオバトルを大学図書館が推進する意義」

講師：吉植 庄栄氏（宮城教育大学附属図書館）

ディスカッション（ライブチャット）：

ゲスト：宮城教育大学ビブリオバトルサークル BIBLion

徳島大学附属図書館 佐々木奈三江 氏

参加：20 機関 38 名

第 2 回

日時：平成 25 年 12 月 9 日（月）

場所：広島修道大学

テーマ：「統計の工夫で職場生き生き」

講演：「統計の工夫で職場生き生き」

講師：野村 正人氏（広島大学図書館）

事前課題 HP：<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/HP/list.html>

参加：21 機関 26 名

発表資料及びアンケート：http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/katsudo_2013_kenshu.html

2 評価

(1) 組織

今年度からは、前年度試行したワーキンググループを発展的に解消し、実務担当者の視点を活かし、且つ迅速な意思決定ができるようにすることを目的として、委員館の中の実務担当者を委員会メンバーの構成員とした。その結果、実務担当者からの目線による、委員会運営を実現することができ、企画案の作成、プログラム内容の決定、研修会までの準備、研修会当日の運営、アンケート実施、結果集計等の業務を円滑に実施することができた。

(2) 研修会

【第 1 回】

ビブリオバトル首都決戦 2013 広島地区予選会の開催を県大図協の事業のひとつとしたため、テーマを「ビブリオバトル」とした。先駆的な取り組みが具体的に紹介された、ビブリオバトルを身近に感じる事ができた研修会となり、各大学からビブリオバトルの文化の底上げに取り組むことができた。

県大図協の研修会で、はじめてのライブチャット方式に挑戦した。結果はネット中継がうまくいかず、宮城教育大学の学生や徳島大学の図書館職員の貴重なお話を活かしきれなかったことが、残念であった。しかし、生の学生の話や先進的な取り組みをしている他大学の様子を知ることはたいへん有意義な研修会となった。

【第 2 回】

「統計」をテーマとした。改善策の実施が、年報値の変動で確認できる等、貸出冊数や入館者数などの統計を日常の業務に活かすことが提案された。さらに、自分たちの図書館の現状をしっかりと分析することが、将来を見据えた業務へと繋がること、会場で紹介された各図書館の利用活性化のための、小さなアイデア、大きなアイデアを情報共有したことも大きな成果であった。

また、事前課題（研修前研修：マエケン）を設けるという新しい試みの研修方式が講師から提案されて挑戦した。事前研修は、出席者だけでなく館員全員で参加でき、研修会当日に結果を自館に持ち寄ることで、更に内容の濃い研修となった。今後もテーマによっては事前、事後研修をとり入れることに挑戦したい。

資料 4

平成 25 年度共同リポジトリ委員会報告

1. 委員会の開催

第 1 回委員会・勉強会

【日時】 平成 25 年 11 月 6 日（水） 13 時 00 分～17 時 00 分

【場所】 広島経済大学 PC 教室

【議題】

システム移行について（報告）

共同リポジトリ参加の会費の減額について（協議）

【勉強会】

新システム (Earmas) についての説明・基本操作・登録実習

2. 共同リポジトリシステム移行について

導入ソフトウェア EARMAS（広大のライセンスを使用させてもらうため無料）

納入・移行業者： 株式会社 ENUTechnology

データ移行費用： 546,000 円

※振込手数料 1680 円

導入ハードウェア DELL PowerEdge (Xeon E5-2420 32GB)

設置先： 広島大学

納入・設定業者： 株式会社ハイエレコン

費用： 451,500 円

※振込手数料 840 円

導入経過

移行要件策定： 平成 25 年 3 月～平成 25 年 12 月

テストページ作成： 9 月 26 日

勉強会実施： 11 月 6 日

ハーベストの停止： 12 月 12 日

システム本移行： 12 月 17 日

不具合の修正： ～3 月（随時）

NII への再申請： 12 月～（機関個別に申請）

今後の予定

・新ページのデザイン

共通デザイン： 尾道市立大学に依頼中

個別設定： 共通デザインの確定後に設定

・マニュアルの作成

3. 参加館について

平成 26 年 4 月より広島都市学園大学が参加し、16 機関となる予定である。

資料5

広島県内図書館連絡会平成25年度会議議事録

1 日 時 平成25年12月24日（火） 午後3時～午後4時15分

2 場 所 広島県立図書館応接室

3 出席者

4 出席者

(1) 委 員

広島市立大学附属図書館 主幹 出原陽子

比治山大学図書館 図書課長 福田房子

安田女子大学図書館 図書課長 日比野政彦

広島市立中央図書館 事業課 館内サービス係長 千原真純

呉市中央図書館 課長補佐 小勝負和洋

広島県立図書館 補佐（兼）図書利用係長 植田佳宏

(2) オブザーバー

広島県立図書館 館長 永井知洋

(3) 事務局

広島大学図書館 図書学術情報普及グループ グループリーダー
野村正人

広島大学図書館 図書学術情報企画グループ専門員 尾崎文代

広島県立図書館 副館長（兼）事業課長 鍛冶美和子

広島県立図書館 総務課長 井上栄三

広島県立図書館 主査 今岡亜樹子

広島県立図書館 非常勤職員 横手淳子

5 議 題

(1) 広島県内大学図書館等と広島県内公共図書館の連携について

ア 事務局が、広島県内大学図書館等と広島県内公共図書館の連携の状況について、資料2、資料3及び「「ビブリオバトル首都決戦2013」広島・山口

地区予選会・地区決戦等の結果」によって説明した。

イ 各委員から次のような発言があった。

(7) 委員（大学）から、「インターネット予約貸出しサービス」の受取館になる場合、「学生と教職員のみ」という限定ができるかと質問があり、事務局が可能であると回答した。質問した委員からは、今後、受取館になることを検討すると発言があった。

(4) 委員（大学）から、物流の改善により、県立図書館の資料を気軽に借りることができるので助かっているが、どの程度使ってよいのかと質問があり、事務局が、現在は件数が少ないこともあり、市町立図書館の物流のように、週2回という限定がないので、しっかり使ってほしいと回答した。

ウ 事務局（公共）が、資料番外によって、次のとおり提案した。

(7) 「新聞・雑誌総合目録」のうち、新聞目録について、平成26年度についてもデータ提供をしていただきたい。

(4) ビブリオバトル（地区予選・決戦 以下同）を、大学図書館等と協調して取り組むこととし、広島大学図書館を窓口として協議していきたい。

(7) 研修会や講演会の類いを、公共図書館との共催で実施できるよう、あるいは、各々が実施する研修会や講演会の類いに「相互乗入れ」が可能となるよう、引き続き配慮していただきたい。

エ 委員からは、次のような発言があった。

(7) 新聞総合目録は、当然のこととして協力したい。

(4) 古い新聞の所蔵状況について需要がある。各図書館が所蔵している古い新聞の情報を充実させていただけるとありがたい。

(7) 事務局（大学）から、ビブリオバトルは、今年度、発表者が8名であったが、増加した場合対応可能か、との質問があり、事務局（公共）が、「運営上、8名が限度と感じた。詳細は検討が必要」と回答した。

(4) 事務局（大学）から、県大学図書館協議会としてビブリオバトルを行

う場合、旅費支出の協議等が必要になるため、県大学図書館協議会総会での承認が必要であり、来年度も同じ時期に実施する場合、今年度同様に広報がぎりぎりのタイミングになると思う、との発言があった。

(h) ビブリオバトルが「広島・山口地区」となっているが、どのような整理で、この地区分けになったのか。

→ 事務局が、地区分けは、ビブリオバトル普及委員会が決定していること、これまでに山口県で開催実績がないため、広島地区と一緒にしたのではないかと思う、と説明した。

(i) 研修について、県大学図書館協議会で、今年度、野村委員が講師となって「図書館統計の活用」といった研修を実施した。公共図書館にも共通するテーマであり、このような共通課題についての研修が実施できればよい。

(j) (i)の発言を受けて、野村委員から、要請があれば協力する、との発言があった。

エ 大学の委員及び事務局からは、ウの(7)及び(4)については賛同するが、ウの(8)については、県大学図書館協議会研修委員会が企画・運営しているため、この意向を伝え、可能なものについては、情報提供を行うとの回答があった。

(3) その他

次のような意見交換等を行った。

ア 大学生が読み聞かせを体験したいと公共図書館にやってくることもある。大学図書館では、絵本の所蔵が少なく、読み聞かせ等の実践の場もないと思うので、こうしたニーズについて、協力ができると思う。

イ 大学図書館では読み聞かせ等のスキルがないが、児童教育等の関係学科があり、学生のニーズはあると思う。参加可能な読み聞かせ養成講座等の情報があれば、是非知らせてほしい。